



解答 I (1)~(4)◎を参照 II 1 (1)(2)◎を参照 2 (A) 4 (B) 4 III (1) People's characters are more complex than you might suppose, so you cannot fully understand other people. However, after you have just a little talk with someone you have just met, you sometimes feel as if you had known them for many years. This may be the beginning of a friendship that lasts long. (2) I think it is important for young people today to be able to cook for themselves regardless of sex. To cook well, you need to have a good imagination and skill with your hands, which is why cooking is beneficial to both mental and physical health. The more attention you pay to cooking ingredients, the more interested you become in natural environment. Furthermore, if you entertain your friends with food prepared by yourself or if you cook with them, it will surely help to deepen friendship with each other.

解説 I (1) 下線部第1文 The animals という部分は、そのまま「その動物」と訳してもよいが、これはホッキョクギツネを言い換えたものなので、元に戻した方が読みやすくなる。なお、この文の全文訳も読みやすさを優先して、能動態で処理している。fit A with B 「AをBに取り付ける」 numbered tag は「番号札」のことだが、ここでは個体識別番号がついた耳の標識(=耳標)のことを指す。released という部分は、(and were) released などと補って読むとよい。whereabouts 「居場所」 下線部第2文 Although ~ employed という部分が副詞節になっていて、主節は、Where some were recovered is deep ~ away. という文を倒置させたもの。この where は「…する場所」(= the place where) という意味で名詞節を導いている。next to …「ほとんど…」 due to …「…のせいで」 being employed は techniques を修飾する分詞句。employ …「…を使う」 high Arctic 「北極の高緯度地域」 more ~ away という部分は前の補足説明になっている。some の後ろには of them の省略がある。recover は「(見失っていたものを)発見する」という意味。(2) target は「標的」という意味だが、ここでは後ろの the animal being investigated 「調査中の動物」と同様に、追跡対象のキツネのことを指している。may be followed が動詞部分で、この後ろはすべて修飾語句である。to ~ goes までは「それが行くどんな所までも」という意味だが「それがどこへ行っても」とすると読みやすくなる。via …「…によって」(手段) radio collar 「発信器付き首輪」 which 以下はこれについての補足説明になっている。which を because it などと読み換えてもよいだろう。目的格の関係代名詞 that 以下は signal を修飾している。detect …「…を探知する」 with precision 「正確に」 (3) 下線部第1文 preordained 「(運命などによって)前もって定められた」は難解な語だが、後ろの random 「行き当たりばつりの」と対比されていることから、どのような意味合いなのかは推測できるはず。that は目的格の関係代名詞。journey は第2段落第2文の movements を言い換えたもの。下線部第2文 If not the latter という部分は If it's not the latter 「後者でないとするれば」という意味。navigate 「長い距離を移動する」 icescape 「氷原」ここでは流氷群のこと。これを2つの that に導かれた関係代名詞節が修飾している。後ろの that には drifts and spins, melts and freezes, has という3組の動詞が続いている。landmark 「道標、目印」 drift 「漂流する」 spin 「回転する」 at the mercy of …「…

のなすがままに」 current 「海流」 according to …「…に応じて」 seemingly は「一見…なようだ」という意味の文修飾の副詞。have not much to offer 「与えてくれるものがあまりない」この much は名詞。in the way of …「…の点で」 scent trail 「匂いの跡」ここでは獲物の匂いのこと。to follow はこれを修飾する形容詞句。satisfy one's appetite 「食欲を満たす」 (4) catch up 「追いつく」ここではキツネに装着できるように装置を軽量化することができたことを指している。tailored ~ foxes という部分は devices を修飾する分詞句。tailor A for B 「AをBに合わせて作る」 including は「…を含む」という意味の前置詞。one は不定代名詞でここでは a device 「装置」のこと。equipped 以下はこれを修飾する分詞句。equip A with B 「AにBを備え付ける」 laced ~ pepper という部分も antenna を修飾する分詞句。lace A with B 「AにBを加える、混ぜる」to discourage 以下は目的を表す副詞用法の不定詞。discourage A from Ving 「Aに…するのをやめさせる」 gnaw … off 「…をかじり取る」

◎ 1895年の春に徒歩で北極点に到達するのに失敗した際に、ノルウェーの探検家フリチョフ・ナンセンは、最も近い陸地から数百キロある、北緯85度の北方の水の上でキツネの足跡をいくつか偶然見つけた。彼は日誌にこう記した。「一体ここでキツネは何をしていたのだろうか?こんなところでキツネが何を食べて生きているのかは分からないが、凍っていない水路で小さなカニでも捕まえることができるのかもしれない。だが、どうしてキツネは海岸を離れるのだろうか。それが一番の疑問だ。もしかすると道に迷ってしまったのだろうか。」

このような謎の一部を解決しようという試みは早い段階で行われたが、かえって謎が深まった。1970年代には研究チームが数年をかけて、北アラスカのホッキョクギツネの冬期の移動を追跡しようとした。⁽¹⁾調査チームはホッキョクギツネの耳に個体識別番号がついた標識を取り付けて放し、その後の居場所を記録した。どのようにしてキツネがさまざまな場所にたどり着いたのかについては、使っていた技術の制約のせいでほとんど何も分からなかったが、2000キロ以上離れた高緯度北極地域の奥深い所で、一部のキツネが発見された。さらにに多くのことを突き止めようと果敢に努力する中で、調査チームは無線遠隔測定を試してみることになった。この技術は1960年代の初めに、野生動物の追跡に革命をもたらしたものであった。⁽²⁾調査対象のキツネに取り付けた発信器付き首輪によって、それがど



こに行こうとも追跡できるかもしれない。というのは、その首輪は、調査員が歩いていても、飛行機に乗っていても、正確に探知できる信号を発信するからである。調査員の1人は次のように言う。「全く何も分からなかった。場所はあまりにも広く、キツネも非常に動き回る。キツネを捕まえて首輪をつけても、発信される信号を聞くことは2度となかった。キツネは本当に消えてしまった。飛行機でも追跡できない所へ行ってしまった。」

このような過酷な条件の下で、ホッキョクギツネが何カ月も休みなく動き回るといことを考えると、多くの疑問が次々に出てくる。³⁾ホッキョクギツネが取る、何らかの決まった行動パターンがあるのだろうか、それともあてもなく移動しているのだろうか。もし後者ではないとしたら、固定した目印が全くない、海流に翻弄されて漂流し回転する、天候によって溶けたり凍ったりする、食欲を満たすためにたどる獲物の匂いの跡もあまりなさそうな氷原の中で、キツネはどうやって長い距離を移動するのだろうか。

1990年代に衛星を使った追跡をするようになって、直ちに答えは出なかった。最初の発信器付きの首輪は大型電池を必要としたので、ホッキョクギツネには重すぎた。⁴⁾だが今では、ホッキョクギツネ用に作られた電池式の軽量装置という形で技術が追いついた。中には、キツネがかじり取らないように、赤とうがらしを塗ったアンテナのついた装置もあった。昨年、カナダのチームはパイロト島のキツネを衛星で追跡した調査結果を発表した。それによって、ホッキョクギツネが定期的に膨大な距離を移動していることの証拠がさらに得られる。まだはっきりしたことは言えないが、キツネは、秋に陸上で手に入る食料の量などによって氷原に出ていくタイミングを決めているという可能性がある。

【解説】 II 1 (1) 下線部第1文 be suited to …「…に向いている」このtoが2つ並列になっている。これがandでつながれていないのは2つの間に密接な関係があるため。betterという比較級に対応するthan以下がついていないのは、比較対象が明白なため。それは「外観分野」つまり「外科」である。この部分を補って訳すことが期待されていると考えるべき。なお、第3段落最後の2文の内容からもこれを確認できる。temperamentally「気質上」cognitive「認知の」introspective「内観の」discipline「分野」filedはその言い換え。ダッシュ以下は、この具体的な説明になっている。internal medicine「内科」psychiatry「精神科」なお、perhapsは「たぶん」ではなくて「もしかすると」といった意味合い。下線部第2文 典型的な無生物主語の構文になっている。これは因果関係の原因を強調したもの。The sight of …という部分を「…を見ただけで」と処理するとうまくまとめることができる。「外科」との関連を考えると、operating theaterは「手術室」のことを指していると推測できるはず。当然、sweatも、仕事などをして「汗をかく」ことではなくて、緊張などによって「冷や汗をかく」という意味合いになっていると判断できる。下線部第3文 これも無生物主語

の構文になっているので、同じ処理ができる。surgical knife「外科手術用のナイフ」→「メス」

(2) 下線部第1文 この文は直訳すると、意味が分かりにくくなるので、訳し方を工夫するとよい。ここでのget encouragementは「激励を受ける」という意味ではなくて「励みになる」という意味合いになっている。from以下はその原因を表している。fellow「同僚の」physician「医師、内科医」who～knifeはこれを修飾する関係詞節。suffer the knifeという部分のknifeはsurgical knifeを指していると分かるので、ここは「手術を受ける」という意味になる。下線部第2文 Marion Stoneとは、第1段落第4文の内容から、筆者の名前であることが分かる。as…asという同等比較が見られるが、ここでの比較の基準はinvolved「熱心に関わって」、比較されているのは「手術後」と「手術前、手術中」である。なお、後の接続詞asの後ろにはhe isが省略されている。下線部第3文 have no use for …「…の使い道がない、…は意味がない」saying「言葉、ことわざ」When (you are) in doubt「疑わしいときには」ここでは手術すべきかどうかの判断がつかない場合のことを指している。cut out …「…を切除する」ここでのitは手術で摘出すべき部位のことを指しているが、それを訳出する必要はない。Why (do you) wait when …? 「…なのに待つ必要があるか」これはWhy don't you …? 「…したらどうですか？」などと同様に反語的な意味になっている。ここでのwhenはeven when「…なときなのに」という譲歩の意味になっている。other than for …「…以外は」(= except for …)この部分はhave no useにつながっている。reliably「確実に」theyは2つの言葉を指している。reveal …「…を明らかにする」the shallowest intellects「非常に浅はかな頭の持ち主」これは浅はかな医師のことを指している。shallowestという最上級が使われているが、ここでは何と比較しているわけでもないで「非常に浅薄な」という意味の絶対最上級になっていることが分かる。out field「私たちの分野」とは「医学界」のことであるが、そのまま訳してもよいだろう。

II (A) 「『グロリア』が演奏できるのにどうして『三匹の盲目的鼠』で満足するのか?」ここでもWhyの後ろにdo youの省略がある。whenは前述のもとと同様に譲歩を表している。ここでのやり取りでは、一貫して比喩が使われていることに注意する。「神の楽器」は「神から特別な才能を与えられた者」、「楽器をケースにしまったままにしておく」は「才能を埋もれたままにしておく」、「楽器のあらゆる部分を使う」は「あらゆる才能を模索する」、「三匹の盲目的鼠」(マザーグースの童謡)は「簡単にできること」、「グロリア」(ミサの曲)は「するのが難しいこと」というような意味を暗示している。したがって、この文の真意は、簡単にできることをするのではなくて自分の才能を十分に発揮できる困難な課題に取り組むべきだということになる。ところが、残念ながら選択肢にはここまで踏み込んだものはない。4「難しい楽曲が演奏できるのであれば、簡単な楽曲で満足してはいけない」が、そのままの意味で





の正解になる。(B)「患者が亡くなる日に手術をしてはならない」 shall not …は「…してはいけない」という意味で、この shall は神の意志を表している。この文には曖昧性が含まれていて、手術をする対象がはっきりしていない。しかし、文脈から判断すると、患者が亡くなることが分かっているのに手術するのは無謀だという意味になっていると判断できる。したがって、4「患者が亡くなることははっきり分かっているときには、手術をしないことに決めなければならない」が正解になる。

◎

私が外科を専門として選んだのは、私の思春期の間、ゆるぎない大きな存在であった看護師長のせいだった。私が助言を求めに行くと、彼女は「あなたにできそうなことの中で最も難しいことは何なの？」と尋ねた。私は困惑して「どうして最も難しいことをしないといけないのですか？」と聞き返した。「マリオン、あなたは神が作った楽器だからよ。楽器をケースにしまったままにしておかないで。演奏しなくちゃ。楽器のあらゆる部分を使ってみて。『グロリア』が演奏できるのにどうして『三匹の盲目の鼠』で満足するの？」と彼女は言った。

「でも、師長さん、バッハの『グロリア』を演奏するなど、思いも寄りません。」と私は主張した。私はどんな楽器も演奏したことがなかった。楽譜さえ読めなかったのだ。「バッハの『グロリア』じゃなくて、あなただよ。あなたの『グロリア』はあなたの中で生きているのよ。」と彼女は言った。
(1) 私は性格的に、外科よりは、認知分野、内観分野—内科、もしかしたら精神科—に向いていた。手術室を見ただけで、冷や汗が出た。メスを持つことを考えただけで、胃が痛くなった。外科手術は、私が想像できる最も難しいことであった。それで私は外科医になった。

30年後の今でも、私の手術の速さや技術的才能に定評があるわけではない。私が患者や特定の状況にふさわしい流儀や手法を取っていると言うのであれば、私はそれを高い評価と受けとめる。(2) 同僚の医師自らが手術を受けるはめになったときに、私の所へ手術を受けに来てくれることは私の励みになる。私マリオン・ストーンは手術前、手術中と同じぐらい手術後も患者のことを非常に気にかけているということを彼らは知っている。『疑わしいときには、切除せよ』とか『手術ができるのに、待つ必要はない』などという言葉は、それによって、私たちの業界には極めて浅はかな知性しか持たない人たちがいるということがはっきり分かること以外、私には何の意味もないことを彼らは知っている。私の父は、その外科医としての力量を私は深く尊敬しているのだが、「最高の結果をもたらす手術は、しないことに決める手術である」と言っている。いつ手術をすべきでないかを知っていること、いつ父と同程度の力量を持った外科医に助けを求めたらいいかを知っていること、そのような「優れた才能」は世に知られることはない。

あるとき生命の危険にさらされている患者に関して、私は父に手術を頼んだ。父は患者の枕元に黙って立っていた。父の厳しい表情から、私は彼が完全に集中していることが

分かった。父は細心の注意を払って、1つ1つの選択肢を天秤にかけた。父はとうとう首を振って、そこを離れた。私も後に続いた。私は「お父さん！」と叫びたかったのに、「ストーン先生」と肩書きを使って言った。「この患者には手術するしか助かる見込みはないんです。」助かる見込みは限りなく低く、麻酔薬を少し嗅いただけでも一巻の終わりかもしれないということを私は内心では分かっていた。父は私の肩に手を置いた。「マリオン、患者が亡くなることが分かっているときに手術をしてはいけないということを覚えておきなさい」と優しく父は言った。

解説 Ⅲ (1) 第1文 全体は、一般論を述べているので、you を主語にするのがふさわしい。「見かけよりも複雑な」という部分は、「そう思われるよりも複雑な」 more complex than it seems (to be), 「思うほど単純ではない」 not as simple as you might think などと表すとよい。「相手」とに当たる英語は特に決まっていないので、文脈に合わせて考える。ここでは「誰か」 someone 「他人」 another person / other people などを使うとよい。「…なはずがない」という部分は cannot を使うか、it is impossible to V などと表す。第2文 「とは言うものの」は「だが」と読み換えられる。「初対面の人物」は「初めて会った人」、「言葉交わす」は「話す」、「つきあいがある」は「知っている」、「…かのような錯覚に陥る」は「…のように感じる」などと読み換えると、表しやすくなる。「まるで…のように」という部分では as if …を使った仮定法で表せる。「…することがある」という部分も、「ときには」 sometimes と読み換える。「何十年も」という部分はそのまま表すと for decades となるが、「長年」「長い間」などと読み換えてもよい。第3文 「こうしたある種の誤解」という部分の「誤解」は、実際には直前の文で述べられている「錯覚」のことを指しているのだから、単に this で受けるか、「このような場合には」などと表すとよい。「長い友情」という部分では、a long friendship というコロケーションがあるのかという点が気になる場合には、a friendship that lasts for a long time などと丁寧に表す方が無難である。実際には、「長い友情」の「長い」という部分には long-term / durable / lasting / lifelong などが使われることが多い。「きっかけ」は「始まり」のこと。

(2) 第1文 「私の意見では…」という部分は「私は…だ」と読み換えることができる。「性別を問わず」という部分は「性別に関わりなく」 regardless of sex 「男であろうと女であろうと」 whether they are men or women などと表す。第2文 「料理をおいしく仕上げる」という部分は「料理をおいしくさせる」 make your food tasty 「上手に料理する」 cook well などと読み換える。「豊かな想像力」 a good [rich / fertile] imagination 「想像力が豊かである」 be imaginative 「手先の器用さ」 skill with one's hands 「手先が器用である」 be clever with one's hands 「…が要求される」という部分は「…が必要である」と読み換える。後半の「心身の健康にとっても良い」の主語は、日本文には記されていないが、「調理すること」





あるいは、前文の内容であることは文脈から判断できる。さらには、「こういう訳で料理は…」という展開にする手もある。「心身の健康」 mental and physical health 「心身ともに健康である」 be sound in mind and body 第3文 「…になれば」という部分は、そのままifで表してもよいが、「…すればするほど～になる」という比較構文を使うとうまく表すことができる。「食材」 foodstuff / food material / (cooking) ingredient 「…に意識的になる」という部分は「…を意識する」 be aware of … 「…に注意を払う」 pay attention to …などと読み換える。「自然」を「自然環境」などと補足するとよりふさわしい表現になる。第4文 「さらに」 besides / moreover / in addition, furthermore 「…を～でもてなす」 entertain … with ～ただし、これを「…に料理を作ってやる」などと読み換えてもよい。次の「人」が指すのが「友人」なのか「他人」なのかはあいまい。「絆が深まる」という部分は、「絆を深める」 deepen bond [ties] などと表してもよいが、「友情を深める」 promote friendship 「…に親近感を覚える」 feel close to …などとすることもできる。「間違いない」という部分は「確かである」と読み換える。



電話: 400-6321-400/13601043104(微信) QQ: 1925811302

地址: 北京市海淀区海淀路北大资源东楼 1433 室